

# 天 心 焼 き

- 北茨城蛙目粘土による試作 -

根本 達志\* 鷺野谷 昇\*  
諏訪 幸雄\* 小島 均\*

## 1. はじめに

北茨城市商工会では、市内から産出する蛙目粘土を利用した「まちおこし事業 - 天心焼き - 」を平成6年度から3ヶ年計画で進めている。初年度では粘土調査、性状試験を実施し、今年度は工芸陶器製造用としての坏土調整や、試作品の展示説明会を開催し、新製品開発への支援を行った。その結果を報告する。

## 2. 北茨城蛙目粘土の特性

一般的な陶芸用粘土に比べ、木目が細かく表面が美しく仕上がり、成形時に磨きをかけると良い光沢が得られる。

乾燥収縮が大きいいためロクロ成形では、薄手の製品など小物に適している。

中性炎焼成で、赤味の火色を呈する。

素地に含まれている鉄分が約3%程度で、釉の発色も良好である。

## 3. 試 作

北茨城市は気候風土に恵まれ「海の幸・山の幸」が豊富にあり、また風光明媚であることなど観光資源に恵まれている。今回試作した一連の食器は、地場産の食材を使った。「民宿の料理」に使用する「もてなしの器」とした。ロクロ成形をメインにタタラものを加え、ロクロ目や手作りの表現を強調したデザインとし、釉薬も土味を生かせる施釉法とした。

### 3.1 坏土調整

ロクロによる大物等の制作には、蛙目粘土単味での使用は不適であるためせつ器質粘土を用い坏土調整をした。

また、土味を表現する方法としてシャモットを10~20

%を外割で混合した粘土を用いた。

### 3.2 成型方法

伝統的成型方法である、ロクロ成形、およびタタラ成形（石膏型打ち）の技法で各種生活雑器を試作した。

### 3.3 加飾仕上げ

- ・二重掛け（図1・2・4・5）
- ・サンドブラスト（図6）

### 3.4 焼成条件

焼成窯炉：ガス炉還元焼成

焼成温度：1240

焼成時間：22時間

使用釉薬：白マット釉・透明釉・灰釉・白萩釉

## 3.5 試作品の品名（図1～7）



図 - 1 てんぷらの器



図 - 2 刺身の器



図 - 3 冷や麺の器



図 - 4 蕎麦の器



図 - 6 天心舟徳利



図 - 5 冷酒の器

#### 4. まとめ

美濃、信楽、瀬戸等の各陶土産地から供給される粘土は陶芸作家はもとより、一般の誰もが容易に入手出来、そのまますぐに作陶できるよう調整されている。

北茨城蛙目粘土はこれらの調整粘土とは異なった、独特の特徴を持っており、この特徴を生かした新しい工芸陶器としての展開が可能である。

今回試作した坯土では、まだその特徴が充分生かされていないと思われる。今後はこれらの特徴を生かした坯土調整試験を実施し、新商品開発の支援を展開して行く予定である。